



TITLE:

楊聯陞教授の□□ 獵師說について

AUTHOR(S):

西村, 元祐

---

CITATION:

西村, 元祐. 楊聯陞教授の□□ 獵師說について. 東洋史研究 1961, 20(3): 324-324

ISSUE DATE:

1961-12-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/148221>

RIGHT:

ひとつをとってみても、招商局をめぐる内外のさまざまな事情が浮び上ってくるのである。

### 楊聯陞教授の鴉片獵師説について

わたくしはさきに本巻第一・二號において『西魏計帳戸籍における課と税の意義』(上)(下)を掲載した。本論は敦煌發見スタイン漢文文書第六一三號の記事のなかで、劉文成戸における二律背反(一戸全員不課口でありながら、戸全體としては課戸となつてゐる事實)を説明しようと試みたものであり、したがつて本文書中における鴉片・防閑等の雜任役の内容は、本論にとつて必須の問題ではないから、しばらく論外におくこととした。ところが先般、拙論がはからずもハーバート大學の楊聯陞教授の目にとまり、京都大學の宮崎市定教授を通じて次の點について御指摘をうけた。すなわち(一)拙論の論旨には同意であるが、(二)楊氏がさきに清華學報・新一卷・第一期に掲載された「與曾我部教授論課役書」(一九五六年六月)において右文書中の鴉片を獵師と讀むべく、また(三)六丁兵州人のうち「乘二人」を「儼二人」とすべきことをのべたが、拙論はこれにふれていない。以上三點である。そこでわたくしは早速、楊先生宛、わたくしがこれにふれなかつた理由、およびその他について愚見を申述べ、楊先生より重ねて御返事をいただいたのであるが、その結果、「乘二人」を「儼二人」とすることは確信をもたれ、その論據を提示された。わたくしは早速、中國・日本の古文書を検討した結果、楊先生の見解の正しいことを知るとともに、本文書の雜任役の内容については、本邦では専

- (1) Feuerwerker. op. cit. p. 107
- (2) もう一つは外國との交渉の面を擔當したこと。

論もなく、今後、色役の研究には是非参考すべき事項であると考えるので、この際、本號の餘白をかり、拙論の補正をかねて、楊氏の高見を紹介することとした。(楊先生、諒承濟)

(A) 鴉片の「獵」について、

(一) 羅振鋆・羅振玉輯、增訂碑別字卷五によれば、鴉・鴉・鴉は共通の文字である。(二) また同右によれば、鴉・鴉・鴉・鴉は共通の文字である。

(B) 鴉片の「師」について、

(一) 大日本古文書三。二四〇―一頁、聖武天皇施入勅願文(天平咸寶元年閏五月二十日)によれば、正一位行左大臣兼大宰師橘宿禰諸兄とある大宰師は太宰師の異字であり、(二) 增訂碑別字卷一によれば、師・師・師・師・師は共通の文字である。

したがつて(A)の(一)・(二)によつて鴉は獵と讀め、(B)の(一)・(二)によつて師は師と讀める。そこでスタイン文書の鴉片を獵師と讀み、これを雑色役の一稱である魚師と同類のものとする楊氏の説は成立するわけである。このことは前號に掲載した拙論の論旨に直接關係なく、したがつて幸にこれによつて前論を訂正する必要は生じないが、小論の發表を機に楊先生の古文書に對する該博な知見に接したことが、およびはるばる海外より未熟な小生に對し御懇切な教示を賜つたことに對し、深甚の謝意を表する。

一九六一年十一月

(西村元佑)